

22章 觀

光

觀

光

1 自 然 公 園

十和田・八幡平国立公園

(昭和11年指定)
(昭和31年八幡平追加)

・概 要

総面積85,409ヘクタールの十和田八幡平国立公園の内、青森県内では十和田・八甲田地域の34,635ヘクタール（境界未確定のため十和田湖水面を除く）が指定されている。

十和田・八甲田地域は、十和田湖の湖辺美、奥入瀬の溪流美、八甲田山の山岳美と変化に富んだ景観が見どころである。十和田湖は、湖岸に茂る木々に囲まれた、周囲44キロメートル、東西10キロメートル、最深327メートルの十和田湖の雄大な景観により年間を通じて探勝者が多く、その湖水の片隅から流れ出る奥入瀬溪流は、子の口から焼山に至る14キロメートルにわたって、奇岩と滝、急流が織りなすダイナミックな景観と、ブナやナラなどの木々の調和、特に紅葉時の景観の見事さで知られる。また、八甲田山は、湿原や湖沼、ブナやアオモリトドマツの原生林、豊富な高山植物、秋の紅葉や冬の樹氷など変化に富んだ景観をもち、温泉も多いことから年間を通して多くの人々が訪れている。

下北半島国定公園

(昭和43年指定)

・概 要

下北半島は青森県の東北部から北へマサカリの形で突き出た半島である。本公園は本州最北の大間崎を北端とし、西は海蝕崖を主とする佐井村願掛岩から脇野沢村鯛島海中公園まで35キロメートルの海岸線部と、東は天然の放牧場となり寒立馬で有名な尻屋崎、さらに中央部には宇曾利山湖を含む恐山カルデラー帯と、ヒバとブナ等の混交林に包まれた薬研溪流を擁している。

また特別天然記念物のカモシカや、棲息最北限として有名であり学術上貴重な価値を有するニホンザルが西海岸に棲息している。

近年、イタコの口寄せがクローズアップされて以来、霊場としての恐山や奇岩、怪石の独特な景観を有する仏ヶ浦にひかれて、下北半島を訪れる観光客も多くなってきている。

津 軽 国 定 公 園

(昭和50年指定)

・概 要

津軽国定公園は、津軽半島最北端の竜飛崎から秋田県境近くの大間越海岸に至る約180キロメートルの海岸部と、岩木山や白神山地の山岳部、十二湖付近の湖沼群に分けられる。

海岸部は、竜飛崎、権現崎、高野崎等の海岸侵蝕の激しい景観と、十三湖や屏風山地区の高層湿原植物群を含む砂丘景観に分けられる。

津軽富士の名で有名な岩木山は山岳信仰の山でもあり、多くの観光客が訪れている。また白神山地は自然環境保全地域（世界遺産）に指定されている。

十二湖は33の湖沼群からなり、日本キャニオン等とともに美しい湖沼美を備えている。

大鰐・碓ヶ関温泉郷県立自然公園

(昭和28年指定)

・概 要

大鰐町と碓ヶ関村にまたがる温泉地域を中心に6,730ヘクタールを指定している。溪流、滝、山岳等優れた自然景観に恵まれ、国体などで有名な大鰐温泉スキー場や茶臼山園地などスキー・自然探勝を中心とした利用が図られている。

平川の上流更に鉄道で19分位にして碓ヶ関に至るがここは碓ヶ関御関所と溪流に臨む文字通り静寂な温泉地として有名である。

種差海岸階上岳県立自然公園

(昭和28年指定)

(昭和49年階上岳追加)

・概 要

ウミネコの繁殖地として有名な蕪島から岩手県境までの美しい海岸線と階上岳一帯の2,427ヘクタールを指定している。雄大な砂浜海岸のある白浜海水浴場や天然芝地が広がっている種差海岸は、ドライブ、キャンプ、海水浴等の利用者が多い。また、階上岳には、6月上旬2万本のツツジが咲き誇る。

浅虫・夏泊県立自然公園

(昭和28年指定)

・概 要

陸奥湾につきだした夏泊半島の地域一帯が含まれ、青森市と東津軽郡平内町に及び、指定面積は5,466ヘクタール。昭和28年6月の指定である。区域内には、浅虫・椿山・浅所海岸・大島などの景勝地があり、交通の便もよい。

浅所から大島に至る東海岸には、白鳥の渡来地として知られる浅所海岸、ヤブツバキの自生北限地として天然記念物に指定されている椿山があり、海岸の風景も女性的なやさしさを見せている。これに対して、浅虫から大島までの西海岸には、海蝕による断崖や絶壁を見せた岬や島々が極めて男性的な景観を展開している。

これらの景勝地を結んで半島を一周する道路があり、海上からの観光には、観光船も出ている。

歩け歩けのハイキングコースだと小湊駅から浅所まで40分、安井崎灯台まで30分、立石海岸まで20分、白砂海岸まで40分、西田沢集落まで40分、そこから椿山まで15分である。歩くのが嫌な人はバスを利用、椿山まで直行すればよい。芝生におおわれた大島にわたり、白い灯台、緑の海で一休みというコースは快適である。

名久井岳県立自然公園

(昭和31年指定)

・概 要

昭和31年10月に県立自然公園に指定された。名久井岳山頂を中心とする半径約2キロメートルのほぼ円形の地域と名久井岳の麓にある城山および諏訪ノ平の飛地が公園地域である。

名久井岳は、三戸町・南部町・名川町の3町にまたがり、標高615.4メートルの比較的低い山で、外観は単峰のように見えるが、実際はいくつかの小山塊が寄り集まった起伏山地である。また一帯には、特別天然記念物に指定されているニホンカモシカをはじめキツネ、タヌキ、アナグマ、リス、イタチ、ノウサギ等の動物が生息している。

南部地方随一の霊峰としても知られ、山麓には法光寺、恵光院、野瀬観音など由緒ある寺院がある。頂上付近には月山奥の院があり、信仰の山として人々からあがめられており、数え年7歳になる男児が身を清め、男親に伴われて登山・参拝する「泉山の登拝行事」は、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

また三戸町から名久井岳の8合目を経て法光寺に至る樹海ラインにより気軽に登山できる。

岩木高原県立自然公園

(昭和33年指定)

・概 要

岩木山南麓に広がる高原を含む面積2,587ヘクタールが昭和33年10月に指定された。岩木山は春から秋にかけての登山、冬から春はスキー場として親しまれ、県内の最高峰・岩木山山頂からの展望は、津軽平野から陸奥湾、日本海も一望におさめ、きわめて雄大である。

登山口は弥生口、百沢口、岳口、鱒ヶ沢長平口、大石口の5つ。昭和40年8月には岳温泉から8合目まで有料自動車道岩木山スカイラインが完成、弘前市内から定期観光バスが運行され、さらに鳥海山噴火口までリフトも架設、リフト終点から頂上まで歩いて30分、一般の人の登山も容易になった。

山麓には奥の日光と称される岩木山神社をはじめ、津軽藩主を祀る高照神社があり、百沢・岳・湯段などの温泉も点在する。

芦野池沼群県立自然公園

(昭和33年指定)

・概 要

中里町の大沢内溜池と金木町の藤枝溜池（芦野湖）の周辺の612ヘクタールを指定している。藤枝溜池（芦野湖）含む芦野園地は、津軽の霊地・川倉地蔵を有し、太宰治の記念碑と桜の名所としても知られ、遊歩道や小動物園なども整備されており、近年利用者が増大している。

黒石温泉郷県立自然公園

(昭和33年指定)

・概 要

十和田八幡平国立公園の西の玄関口とも言える浅瀬石川に沿う、温湯・落合・板留・二庄内・青荷・沖浦・切明・温川などの温泉が点在する黒石温泉郷を中心に5,100ヘクタールを指定している。

また、津軽為信の津軽統一によって、浅瀬石川流域の中心が黒石になった。当初は今の境松付近に黒石館を設置したが、明暦元年（1655年）津軽三代藩主信義の弟信英が黒石に5,000石で分知され津軽黒石藩の初代となりその城址が御幸公園である。黒石は文学碑の多い町だが、この御幸公園にも、黒石が生んだ新劇の指導者で詩人の秋田雨雀と、口語歌人の鳴海要吉の碑がある。

さらに、浅瀬石川ダムの雄大なダム景観、紅葉の名所として知られる中野紅葉山、青荷溪流、津軽こけし館などの施設もあり県外からの利用者も多い。

赤石溪流暗門の滝県立自然公園

(昭和56年指定)

・概 要

世界遺産の登録になっている白神山地自然環境保全地域に隣接する赤石溪流と暗門の滝周辺の5,239ヘクタールを指定している。

この地域は出羽山地の北端に当たり、連続する山脈と急な谷が複雑な地形を形成しており、変化に富んだ自然景観を見せてくれる。高さ85メートルのくろくまの滝を含む赤石溪流地区、典型的なV字谷地形から流れ落ちる暗門の滝（1の滝42メートル、2の滝37メートル、3の滝26メートル）、総貯水量3,900万トンの目屋ダムで作られた人造湖・美山湖、野外レクリエーションの場として適している種里城趾等、特に秋の紅葉シーズンは圧巻で数多くの探勝者を魅了する。

2 主 な 名 所 旧 跡

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
青森ウォーターフロント周辺	青 森 市	県都青森市の海の玄関口ウォーターフロント周辺は、観光物産館アスパムを始め、八甲田丸、青森ベイブリッジと楽しい話題を提供してくれる。青い海公園は夕暮れが美しい潮の香りのする公園である。	青 森 駅
酸ヶ湯温泉	青 森 市	八甲田の主峰・大岳（標高1,584メートル）の西麓925メートルにある。その昔、手負いの鹿が温泉で傷を癒していたことから「鹿の湯」と言われていた。昭和29年には、国民温泉第1号の指定を受けている。80坪もの総ヒバ造りの「千人風呂」（混浴）には、熱の湯、冷えの湯、四分六分の湯、湯滝があり、それぞれの疾患によって入りわけける。夏は登山、冬は湯治、スキー客の拠点である。	青森駅からJRバス
八甲田山	青 森 市	標高1,584メートルの大岳を中心として連なる山々の総称です。湿原植物の宝庫で夏は愛らしい花々を求めて登山客が、冬は青森トドマツのみごとな樹氷を求めてスキーヤーで賑わっている。	青森駅からJRバス
浅虫温泉	青 森 市	全国有数の温泉郷として海辺の絶景地として知られ、青森県営浅虫水族館もある。	浅 虫 温 泉 駅

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
弘 前 城	弘 前 市	往時を忍ぶように現在6つの郭と天守閣、3つの櫓と5つの城門が残っており、天守閣など9つが文化財に指定されている。天守閣を取り囲むような弘前公園は桜の名所、3千本以上の桜が咲き競う様は全国一、二位の景観である。	J R弘前駅から弘南バス
種 差 海 岸	八 戸 市	八戸市の海岸“うみねこ”繁殖地の蕪島を含んで対岸の鮫町から、白浜、深久保、種差、法師浜大久喜の弁天島までの8キロメートルを起伏のなだらかな平原と松原、海浜の芝生、太利の怒濤をかむ巨岩奇石又放牧の馬等が織なす情趣は、景勝の地として偉観を呈し、昭和12年名勝地に指定されている。	八 戸 線 種 差 駅
是 川 遺 跡	八 戸 市	昭和32年に国史跡となった是川遺跡は、縄文時代の代表的な遺跡であり、その出土品は、植物質製品をはじめとして、土器・石器ともたいへん優れたものが多く、昭和37年に633点が国の重要文化財の指定を受けている。漆の加工された精巧な土器類と共に漆加工の植物性遺物が多数発掘されていることが特徴である。	J R八戸駅から八戸市営バス
櫛 引 八 幡 宮	八 戸 市	櫛引八幡宮は南部氏の始祖光房が貞応元年甲州より遷座したものとされ、同社所蔵の五種の甲冑のうち、2つは国宝、3つは重要文化財に指定されている。	J R八戸駅から南部バス
椿 山	東津軽郡平内町	全山椿に覆われた椿山は海岸線の景勝と相俟って春5月の開花する頃は一大壮観を呈し、椿の自生最北限地として天然記念物に指定されている。この椿についての伝説もある。	J R小湊駅から青森市営バス
浅 所	東津軽郡平内町	平内町小湊から椿山への途中、浅所海岸は白鳥の渡来地として有名である。毎年10月下旬群をなして渡来するがその来る場所、去る場所は明らかでない。この白鳥は特別天然記念物に指定されている。	J R小湊駅から青森市営バス
袈 月 海 岸	東津軽郡今別町	竜飛岬と共にこの地は、海岸線の屈曲、奇岩連続、又、断崖絶壁の景勝地として名高い。	J R三厩、今別、蟹田各駅から青森市営バス

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
竜 飛 岬	東津軽郡三厩村	津軽半島の最北端にある竜飛岬は奇岩の連続、海岸線屈曲に富み、北海道を目前に眺めた景観は、遊覧に最適地として知られる。又、三厩村には昔源義経が弁慶を従いこの地から渡道したと伝えられる義経寺がある。	J R 三厩駅から青森市営バス
亀ヶ岡遺跡	西津軽郡木造町	旧館岡村の亀ヶ岡に発掘された土器から、弥生式文化が西日本に、縄文式文化は東日本に栄えたということがわかり、しかも北上するに従って発達の高め、本県はこの文化圏の晩期には中心的地位に当たり亀ヶ岡がその核心をなしていたことが証明されている。	J R 五所川原駅から弘南バス
深 岩	西津軽郡深浦町 西津軽郡岩崎村	J R 五能線沿線は、いわゆる西海岸と呼ばれ、深浦を中心にして奇岩、怪礁、白砂の流辺あり、地震で海床が隆起し奇観を呈する千畳敷があり景勝地としてすぐれているばかりでなく、30余の沼が連鎖状を呈する十二湖と秋の紅葉は、観光地として代表的なものである。また、津軽文化の発祥地としての史蹟も多く、昔坂上田村麿が安置したと伝えられる十一面観音が古稀春光山円覚寺にあり、境内には千年を経た老杉、大銀杏が昔の面影を偲ばせる。	J R 深浦駅から弘南バス
岩 木 山	中津軽郡岩木町	本県の最高峰として海拔1,625メートルの岩木山は、岩木、厳鬼、鳥海の三峰に分れ、その姿は富士に似ており「津軽富士」とも称されている。陰暦7月下旬から8月上旬にかけて、津軽地方の守護神様といわれる岩木山神社に、五穀豊穡と家族安泰を祈願し白装束での登山行事が行なわれていたが、現在は女人禁制も解かれ、県外からの登山客も集まる。	J R 弘前駅から弘南バス
岩 木 山 神 社	中津軽郡岩木町	岩木山の麓に頭国王神、多郡北売神、宇賀能売命の三神を祀る岩木山神社があり、津軽地方の総鎮守として岩木山を信仰する神社である。奈良時代光仁天皇の宝亀17年(780年)北麓十腰内に宮居を定め堀川天皇の寛治5年(1091年)に南麓の今の地に移したという説がある。天正17年(1589年)の岩木山噴火により消失した建造物は、津軽為信の崇敬によって再興され、下居宮の別当寺であった百沢寺の桜門及び大堂(本堂)として、現在の桜門と拝殿が造営された。 その後4代藩主信政により、本殿・奥門・瑞垣・中門が建立されている。	J R 弘前駅から弘南バス

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
暗 門 の 滝	中津軽郡 西目屋村	近くに百沢及び獄温泉がある。 県内随一を誇る暗門の滝は三段に分れ、一段の滝は42メートルに達する。また瀑布で4キロメートル離れた所から瀑音が聞えるといわれる。	J R弘前駅から弘南バス
大 鱈 温 泉	南津軽郡大鱈町	古くから温泉の地としてまた観光地として知られ冬は国体スキー競技場として全国に名高い。更に隣村碓ヶ関温泉を加えて大鱈・碓ヶ関温泉郷として県立自然公園に指定されている。	J R大鱈温泉駅から徒歩
猿 賀 神 社	南津軽郡尾上町	この神社の祭主は仁徳天皇時代、エゾの地に戦死した田道命を祀り旧藩時代までは天台宗神宮寺が別当であった。津軽地方三大祭典の一つとして陰暦8月15日の行事には数万の参詣者が集まる。 神社に隣接する猿賀公園は、6.3ヘクタールの広い面積を有し、鏡ヶ池と見晴ヶ池の2つの池が、その美しさに華を添えている。特に鏡ヶ池に群生する蓮の花は、8月中旬に一面に咲き誇り、訪れる人々の目を楽しませてくれる。	弘南鉄道 黒石駅から弘南バス
浪 岡 城 跡	南津軽郡浪岡町	吉野朝（14世紀後半）初期東北地方に活動した北畠氏は親房の子顕家、顕信等が拠点を失った後、陸奥、出羽の北方に逃れて後図を計ったといわれるが北畠氏最後の拠点としての浪岡城跡は、北畠累代の墓所と共にその面影を残した由緒ある史跡指定地である。	J R浪岡駅から弘南バス
七 戸 城 跡	上北郡七戸町	七戸城は南部又次郎師行の弟南部六郎政長が奥州から新田義貞の鎌倉攻めに参加し、此の軍功により建武元年甲斐鎌倉見山の地を賜っており、その後七戸の地を賜り根拠とし政長の孫政光が領知して改修しその子孫が相継いだといわれる。高さ100尺、東西97間、南北60間の1,209坪余りで、本丸には堀を巡らしたらしく今も少しの水をたたえる。	J R上北町駅から十和田観光電鉄バス 十和田市から十和田観光電鉄バス
法 量 の イ チ ョ ウ	上北郡 十和田湖町	法量のイチョウは法量淵沢善正寺跡にあり雄株で樹高約30メートル、幹のまわり14メートル、太枝が俗に乳と呼ぶ柱瘤が多数垂れ下がり、その最大のものは基部周囲約60センチメートル、長さ2.42メートルもある。	十和田市から十和田観光電鉄バス

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
葛 温 泉	上北郡 十和田湖町	<p>地上数メートルの所から36本の太枝が繁り樹相雄々しく、夏緑の姿は周囲の風情と相呼応し一大パラダイスの景観を呈している。この樹齢は約千余年と推定され天然記念物に指定されている。</p> <p>奥入瀬川と合流する地点から葛川を4キロメートル遡ったところにある秘湯。樹齢数百年と言われるブナの原生林、神秘的な雰囲気を感じる葛の七沼、森林浴や野鳥観察が楽しめる葛野鳥の森自然観察路がある。</p> <p>十和田湖を人々に広く紹介した紀行作家・大町桂月が晩年 ^{いおり}庵 を結んだ ^{ゆかり}縁 の地で、近くには墓もある。温泉は無色無臭の単純泉である。</p>	青森駅からJRバス 三沢駅から十和田観光電鉄バス
奥 入 瀬 溪 流	上北郡 十和田湖町	<p>十和田湖のもつ唯一の溪流で十和田湖子ノロから焼山へと14キロメートル、約200メートルの高低差の溪流は天然記念物に指定されており、さまざまな流れを見せ、まさに千変万化。溪流沿いには水湿性植物が見られ、ブナ、カエデなどの落葉樹が多く、秋の紅葉期には、水の流れと相俟って世界一の溪流美と称される。</p>	青森駅からJRバス、三沢駅から十和田観光電鉄バス
十 和 田 湖	上北郡 十和田湖町	<p>青森・秋田両県の県境に位置し、湖の最深部は327メートルで全国第3位、面積は59.8平方キロメートルで第13位の十和田八幡平国立公園にある典型的な二重式カルデラ湖である。湖にはヒメマスが棲息し、湖岸にはカツラ・カエデなどが生い茂り、春の新緑、秋の紅葉は美しく、国際的な景勝地である。</p>	青森駅からJRバス、三沢駅から十和田観光電鉄バス、弘前駅から弘南バス
法 光 寺	三戸郡名川町	<p>法光寺は、後深草院の御代建長年間の開創で、鎌倉執権最明時頼公が奥州行脚の際この地に登り、時の無銀山観音寺に意を留め、鎌倉から大工、左官、鍛冶、木挽等を派遣して新たに七堂伽藍を建立し、白華山法光寺と号したといわれる。</p>	剣吉駅から名久井まで南部、三八五バス
仏 ヶ 浦	下北郡佐井村	<p>約3キロメートルにわたって奇岩怪石が立ち並ぶ海岸で、青白色の硬質凝灰岩が吹きつける風と打ち寄せる波によって形造られ、その景観は、まさに大自然の芸術品のよう。付近の海域一帯は仏ヶ浦海中公園に指定されている。</p>	青森市、佐井村から下北汽船

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
下 風 呂 温 泉	下北郡風間浦村	太平洋に面した磯の香の漂う岩磯の温泉として特殊な趣があり、また夏の夜にはイカ釣り船の漁火が海峡を彩り、観光地として名高い。	むつ市から下北交通バス 大畑町から下北交通バス
尻 屋 岬	下北郡東通村	太平洋に突き出す下北半島の東端。古くからガス（濃霧）が発生しやすく海の難所といわれており、光度200万カンデラ、光達距離34キロメートルの日本一明るい灯台がある。放牧されたまま冬を越す「寒立馬」も見られる。	むつ市から下北交通バス
恐山・薬研温泉	下北郡大畑町 む つ 市	下北半島の中央部に聳える恐山は休火山で日本三大霊場の一つとして有名である。又薬研温泉は紅葉と岩石嶮峰の多い渓谷美に富んで有名な山峡の温泉で周囲は三大美林の一つひばの原生林に覆われ仏法僧の鳴声も又神秘的である。	大畑町から下北交通バス むつ市から下北交通バス
三内丸山遺跡	青 森 市	これまでの発掘調査で、縄文時代前期から中期（約5500年～4000年前）の大集落跡や平安時代の集落跡（約1000年前）、中世末（約400年前）の城館の一部が検出されている。 特に縄文時代の大集落は、居住域や大規模な墓域、大型の掘立柱建物跡、土器作りの粘土採掘穴、盛土遺構（廃棄ブロック）などの施設を計画的に造っている。また交易によって他地域から持ち込まれたヒスイやコハクも出土している。	青森市から青森市営バス

資料 県文化観光推進課

注：本表は文化財と多少重複する個所もある。

3 主な天然記念物及び文化財

・ウ ミ ネ コ

鴟科に属する鳥で八戸市鮫駅より北へ1キロの沖合にある周囲2.7キロの蕪島を繁殖地としている（蕪島ウミネコ繁殖地：国天然記念物指定）。地元では「ゴメ」ともいう。雌雄同型極めて愛らしい小鳥である。

彼女らは3月中旬南の島から八重の湖路を白い翼に託して渡来し始め4月中旬頃までに全群棲集団となる。その頃から島の草原や岩石の凹みなどに、足の踏場もないほど巣をつくり5月には、一つの巣に三つ位の卵を産み雌雄交互に抱いて3週間から24日目位で孵化する。これが6月上旬には親鳥に連れられて岩蔭や草原に遊んでいる可愛い雛を見る事が出来る。やがて8月中旬から9月中旬にかけて一人前に成長し島の付近を飛び廻るようになり、10月上旬海上を自由に飛べるようになれば一群、二群と島を去り南に帰って行き、翌春この島を訪れる頃には一人前になっている。土地の人は彼女達を神の御使姫と呼んで大事にしている。

・ハクチョウ（特別天然記念物）

東郡平内町浅所は白鳥の渡来地として有名（小湊のハクチョウおよびその渡来地：国特別天然記念物指定）だが、遠浅の海岸に群をなして毎年10月下旬飛来し、何処から来て何処へ去るか未だ判然としていない。一説にはノルウェーの北部海岸あるいはシベリアといわれている。磯馴松の島影を映ずる小松島は橋でつながれ、地元民は毎年飛来する数千羽のハクチョウを神の使いとして大切に保護している。

・椿 山

平内町浅所海岸からバスで安井崎灯台を過ぎ優美な景観を誇る海の終点、東田沢に有名な椿山と椿山神社がある（ツバキ自生北限地帯：国天然記念物指定）。この椿は昔越前の横峰嘉平という商人が交易にきて土地の娘タマとねんごろになった。あるときしばしの別れで悲嘆にくれるタマに椿油を持って必ず訪ねると約束して国へ帰った。嘉平が翌年再び訪れたときには、タマはすでに亡く、嘉平はやるせない思いを胸に持参した3株の椿をタマの墓畔に植えてこの地を去った。その霊がこもって南国の椿が全山に広がったと伝えられ、小高い山の頂上から椿山を見下す美しさは古人をして

“あらい所に寄せ来る浪も照るばかり田沢の山に咲く玉椿”

と詠嘆せしめている。神社の境内は天然の芝生で家族連れのパクニックに好適である。

・法量のイチヨウ（銀杏）

上北郡十和田湖町の法量にある銀杏の木は、奥入瀬川に沿う路の丘上にあり樹齢一千年といわれる幹まわり14メートル、樹高約30メートルの大銀杏である（法量のイチヨウ：国天然記念物指定）。

・猿 賀 神 社

黒石よりバスで4キロ、弘南鉄道尾上駅より1キロの所に猿賀神社がある（本殿：県重宝指定）。昔、坂上田村麿が勅を奉じて建立したものといわれている。この神社の周辺には鏡ヶ池があり蓮の花が群生している。

・長 勝 寺

弘前市内西茂森町にあり、津軽家累代の菩提寺として寺格高く津軽曹洞宗の本山であった（三門等：国重要文化財指定）。ここは津軽侯が事ある場合に備えて僧兵を置いた寺で、道をはさんでこの長勝寺には藩祖以下の歴代の霊屋がある。長勝寺の三門を入ると高さ8間の楼下には金剛力士の像、楼上には五百羅漢を安置している。梵鐘は北条貞時より寄進された（銅鐘：国重要文化財指定）。嘉年四年丙午鑄造の華鯨堂庫及び蒼竜違の諸建築など壮麗な一大伽藍である。

・最 勝 院（五重塔）

津軽統一の過程で戦死した敵味方の者を供養するために、津軽3代藩主信義の帰依を受けて明暦2年(1656)に着工されたが、工事は一時中止され、4代藩主信政の寛文7年(1667)に竣工したものである（五重塔：国重要文化財指定）。三間五層の塔で、総高は31.2メートル、屋根は宝形造銅版葺、軒は二軒繁垂木、組物

は和様の三手先である。中備は初層が藁股、2層が藁束、3・4・5層は間斗束として変化をつけ、窓についても、初層正面を連子窓、他の面は円形の板連子とし、2・3層には格狭間型の窓、4・5層では矩形の板連子としている。心柱は角柱で、初層の天井裏までで止められており、初層には大日如来が安置されている。

・弘 前 城

弘前城（天守等：国重要文化財指定）は津軽の藩祖為信が企画し、二代目信枚が慶長16年6月完成したもので、以後三百年間津軽藩の居城で日本七名城の一つに数えられる（津軽氏城跡：国史跡指定）。本丸、武者溜、二の丸、三の丸、内池、四の北、西の廓八、櫓と城門十二、濠三重、東西五町四十間、南北八町四十六間、面積14万4千余坪の平山城である。築城以来一度も戦災を被らなかつただけに櫓、門など昔のままである。天守閣は寛永4年に落雷のため焼失したので文化7年三層に構築したものである。城内には老杉が翠を飾り、3千本の桜の名木が繁っている。桜は正徳5年嵐山から25本の吉野桜を移植したのが始めといわれているが、現在ある3千本は故山内寛弥翁が明治12年城内数ヶ所の空き地を開拓し、以後数回に亘り大量移植したので現在の如く東北一の桜の名勝となったもので、例年4月下旬から5月上旬のさくら祭りには遠方からの団体客などで賑わう。本丸の石垣の入口には千年の鶴の石、万年の亀の石が配置され、松上ではウグイスやホトトギスが鳴き、清澄な内濠には葦が一面に生えている。弘前市の西北3里津軽平野の真っ只中に巍然として聳える海拔1,625メートルの岩木山を本丸から眺める風景は、あたかも三保の松原と富士山を彷彿せしめるものがある。春は桜花、夏は蓮華、秋は紅葉で俗塵を脱した市民の行楽の地である。

・弘 前 八 幡 宮

もと中郡大浦村鼻和庄八幡村にあったものを津軽為信が堀越城に遷座し、さらに慶長17年信枚が現在の地に勧請して弘前の鎮守とした（本殿、唐門：国重要文化財指定）。金剛山最勝院に三百石を賜り、この八幡の別当としたが、神仏混淆を廃せられて後、最勝院は大円寺に移された。祭神は菅田別尊外三神で、境内には老杉が茂り、樹間から岩木山と八甲田山を西と東に眺められる景勝の地である。

・誓 願 寺

この寺は約四百年前津軽為信が京都の誓願寺を招じて大光寺町に建立したが、慶長年間弘前に移し為信の室月尼の廟所として津軽一宗の総録と定めた（山門：国重要文化財指定）。浄土宗に属し県下で一番古く、同宗第一の寺格をもち藩主の菩提寺として貴重品が保存されていた。また、山門は極めて珍しい構造をとり、十二支の絵や、懸魚に鶴や亀の彫刻が用いられ「鶴亀門」と通称される。

・岩 木 山 神 社

中郡岩木町百沢にある（本殿：国重要文化財指定）。顕国王神、多都北売命、宇賀能売命の三神を祀り、津軽地方総鎮守の社として崇められている。祠堂は結構壯麗を極め彫刻が精巧で奥日光の称がある。延暦15年桓武天皇の草創といい、又、坂上田村麿將軍の造営とも言われる。津軽家に至っては崇敬最も厚く、寛永5年本堂を築造し、本社は津軽信政が貞享3年から元禄7年にわたる7ヵ年の月日と18万両を費して造営したものである。お山参詣はこの神社の祭典日で旧（陰暦）8月1日に行われ、神社参詣と岩木登山をかねて参拝するものである。

4 県内主要行催事観光客数の推移

(単位：千人)

区 分	年 次					
	平成5年	6	7	8	9	10
青森春まつり(青森市)	274	161	224	292	313	182
弘前さくらまつり(弘前市)	2,080	1,900	1,900	1,830	1,810	925
春まつり(八戸市)	332	114	304	240	294	243
青森ねぶた祭(青森市)	3,590	3,690	3,775	3,790	3,800	3,700
弘前ねぶたまつり(弘前市)	1,420	1,300	1,420	1,490	1,470	1,400
八戸三社大祭(八戸市)	1,193	1,068	1,088	1,158	1,262	1,025
黒石よされ(黒石市)	290	140	140	140	158	158
虫おくりと火祭(五所川原市)	622	632	526	655	653	665
弘前城もみじと菊人形(弘前市)	650	675	664	653	630	560
青森冬まつり(青森市)	252	206	152	170	180	123
弘前城雪灯籠まつり(弘前市)	201	300	310	350	350	280
えんぶり(八戸市)	89	205	280	300	242	249

資料 県文化観光推進課「青森県観光統計概要」

5 県内主要スキー場利用客入込数の推移

(単位：人)

区 分	年 次					
	平成5年	6	7	8	9	10
八甲田スキー場(青森市)	115,087	112,629	114,945	102,475	147,394	156,191
モヤヒルズ(青森市)	109,200	127,150	111,900	110,900	111,700	126,100
釜臥山スキー場(むつ市)	52,301	57,751	59,137	53,181	42,589	37,508
鱒ヶ沢スキー場(鱒ヶ沢町)	310,000	346,000	344,300	358,100	344,000	333,000
岩木山百沢スキー場(岩木町)	107,961	108,852	81,073	69,000	63,694	61,968
大鱒温泉スキー場(大鱒町)	322,575	341,489	301,891	294,638	252,366	190,666
まかど温泉スキー場(野辺地町)	42,736	45,090	47,697	63,341	43,609	41,239
七戸町営スキー場(七戸町)	26,411	34,329	32,345	32,797	22,990	23,601
十和田湖温泉スキー場(十和田湖町)	42,732	64,590	49,000	51,498	25,516	21,727

資料 県文化観光推進課「青森県観光統計概要」

6 県内主要海水浴場入込数の推移

(単位：人)

区 分	年 次					
	平成5年	6	7	8	9	10
合浦公園海水浴場(青森市)	37,889	90,831	46,159	77,367	45,600	42,911
白浜海水浴場(八戸市)	102,425	367,670	293,000	320,700	301,625	122,230
小川原湖湖水浴場(三沢市)	97,110	291,780	262,600	234,000	334,000	315,000
鱒ヶ沢海水浴場(鱒ヶ沢町)	110,550	250,000	226,000	223,000	205,000	181,597
大間越海岸海水浴場(岩崎村)	76,000	136,000	89,000	92,000	88,000	85,000

資料 県文化観光推進課「青森県観光統計概要」

7 自然公園別観光レクリエーション客入込数等の推移

(単位：千人，%，百万円)

公園名	観光地名	平成元年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	対前年比
国立公園	十和田	2,982	3,110	3,262	3,203	3,043	3,223	3,136	3,120	2,880	2,572	89.3
国定公園	下北半島	1,321	1,292	1,294	1,217	1,162	1,189	1,215	1,275	1,273	1,384	108.7
	津軽	2,231	2,336	2,495	2,510	2,447	2,745	2,723	2,839	2,964	2,970	100.2
県立自然公園	浅虫夏泊	1,125	1,176	1,180	1,217	1,217	1,138	1,201	1,081	1,003	970	96.7
	大鱒・碓ヶ関温泉郷	1,030	1,161	1,212	1,132	996	1,053	980	904	749	631	84.2
	種差海岸岳	624	670	625	619	531	663	672	682	720	619	86.0
	名久井岳	429	441	458	467	528	508	511	512	492	453	92.1
	岩木高原	483	495	503	505	578	554	535	496	517	495	95.7
	黒石温泉郷	937	1,158	1,062	1,015	1,037	1,009	997	1,011	943	917	97.2
	芦野池沼群	453	496	507	483	572	528	656	604	635	618	97.3
	赤石溪の流滝	101	124	158	181	212	243	356	444	475	570	120.0
	小計	5,182	5,721	5,705	5,619	5,671	5,696	5,908	5,734	5,534	5,273	95.3
合計		11,716	12,459	12,756	12,549	12,323	12,853	12,982	12,968	12,651	12,199	96.4
観光消費額		73,963	78,553	149,099	154,465	158,721	169,137	176,137	177,550	175,603	167,989	95.7

資料 県文化観光推進課「青森県観光統計概要」

注：観光消費額については、平成3年から県全体の額である。